

自治基本条例審議会と住民ワークショップ（WS）の関係性

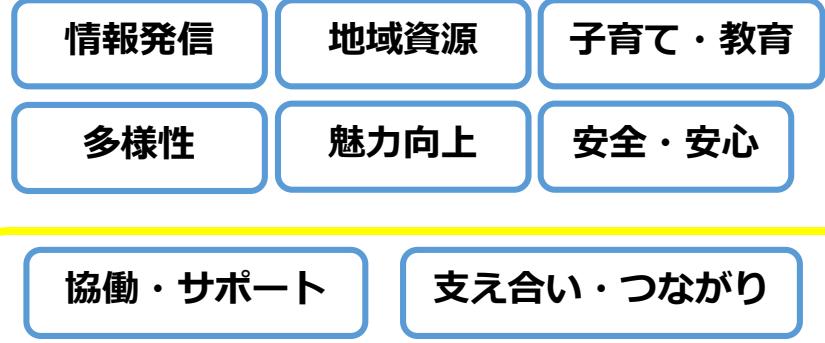
第2回審議会・第1回住民WS

～広陵町のええところ・あかんところ～

ワークショップ意見集約

第1回住民ワークショップ (2019年9月8日)	
<p>① 広陵町、ここがよいね(現在)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○人が温かい ○豊かな自然と歴史がある ○ほどよい都会、ほどよいイナカ (田舎) ○地場産業がさかん(靴下) ○災害が少ないが、洪水の危険は忘れてはいけない ○大阪、奈良等の都市部に近い(高速道、電車を使えば) ○住民間のつながりが強く、団結の強い地区がある ○住民と行政職員との距離が近い 	<p>④ だから、将来はこうなってほしい!</p> <ul style="list-style-type: none"> ○いくつになっても(ゆりかごから墓場まで)安心して暮らせるまち ○学校、地域、家庭のつながりの中で、子どもたちを守り育てるまち ○多様性を大切に、開かれた、魅力あるまち ○どんな問題でもなんとか解決するまち ○住民の熱い思いをサポートできるまち ○歩いて暮らせるまち ○町民と行政の協働をすすめる = 情報発信など
<p>② 広陵町のここがあかん!</p> <ul style="list-style-type: none"> ○交通が不便(車がないと生活できない、電車・バスの本数が少ない) ○働く場が少ない、小さな商店が少ない ○住民が広陵町のことを知らない ○地域での住民の活動等が知られていない ○町として情報発信(広報)力が不足 	<p>③ 将来、こうなったらあかん!</p> <ul style="list-style-type: none"> ○車がないと生活できないのはいけない(公共交通の充実) ○コミュニティが弱分断、弱体化してはいけない ○若者が減ってはいけない、独居老人が増えるのも問題だ ○休耕田が多くなり、農業等の後継者が減りなくなる ○空き家が増える、緑資源が少なくなる ○ナンバーワンの気持ちをなくしてはいけない

広陵町の将来はこうなってほしい!



協働のまちづくり



課題

- ・団体どうしのつながりがない
- ・住民の意識が低い、自治会離れが進んでいる
- ・少子高齢化、担い手不足

解決策

- ・関心事の共有 (SNS等)
- ・楽しみの創造、地域の人をつながりづくり
- ・コミュニケーション強化、他団体と協力

地域自治の新しいしくみ

- ・課題別に対応した組織づくり
- ・みんなで考えるまちづくり
- ・小学校区にとらわれない組織

条文案に反映

第3・4回審議会・第2回住民WS

～参加・参画と協働、地域自治の新しいしくみ～

資料 2

9/8 第3回審議会ワークショップ結果

資料 2

① 身近(広陵町内)にある参加・参画・協働の事例を挙げて、② その主体どうしの関係は如何に? ③ 「だからうまくいった」点を挙げてみよう。

グループA	市民・町民・事業者が	行政・議会が	みんなで力を合わせて(協働)
こんなまちに! こんな暮らし!			
子育ての世代が安心して暮らせるまち	習が習習後、地域で活動 施設所が未だ少ない上に 児童のお父さん、お母さんで子ども の習習を促す 行政に頼りすぎない	教育に力を入れる 民間機関の充実	地域力の強化 防災力の強化
高齢のやけどい「気持ち」を重視し、出来る限り	自分の思いを発信する 自分の成功(失敗)体験の発信 既存事業(新規事業)のつなぎ リタイア後の活用	フレックスタイムを支援 専門家の手配、大学の連携 補助金 市民団体等とのつなぎ 広報支援	
人と人のつながり	誰もが協力できる関係 支え合う関係が大事	住民が主体 協働を推進	いろいろな人の意見を聞く 行政に頼りすぎない

ワークショップ2 今後の広陵町の地域自治をどうするか

1歳未満のいる世帯率および高齢化率の推移を見て、
「陵町で起こることの未来予測」
る解決策の提示

陵町で起きること(未来予測)
(介護費などの福祉費増大、道路整備等の必要性)
より、自治会や自警団、子供の会継続困難

地(庭)増大

2 どうしたらよいか?(解決策)

- ①活動寿命を延ばす取組促進
- ②定年延長
- ③働く場の確保、企業誘致促進
- ④親族等のUターン・移住促進
- ⑤外国人雇用、登用、労働人口確保、移民認定
- ⑥子どもを増やす政策(結婚支援等)